

インフルエンザワクチンの説明書

インフルエンザとは	インフルエンザは、インフルエンザウイルスに感染することによって起こります。インフルエンザにかかった人が咳やくしゃみなどをする事により、ウイルスが空気中に広がり、それを吸い込むことによって感染します。典型的な症状は、突然の高熱、頭痛、関節痛、筋肉痛などで、のどの痛み、咳、鼻水などもみられます。普通のかぜに比べて全身症状が強いことが特徴です。気管支炎や肺炎などを合併し、重症化することもあります。また、流行が始まると短期間に小児から高齢者まで膨大な数のひとを巻き込み、ときに 65 歳以上の高齢者や慢性疾患患者で、死亡率が普段より高くなるという点で普通のかぜとは異なりなす。
接種対象年齢 接種期間・回数	65 歳以上の者 60 歳以上 65 歳未満の者で心臓、腎臓、呼吸器の機能の自己の身の日常生活活動が極度に制限される程度の障害を有する者、及びヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能に日常生活がほとんど不可能な程度の障害を有する。身体障害者手帳 1 級相当 令和 8 年 10 月 1 日～令和 9 年 1 月 31 日の期間に 1 回
接種前の一般的注意	説明書をよく読み、接種の必要性や副反応についてよく理解し、気にかかることやわからないことがあれば、予防接種をうける前に医師や看護師に質問しましょう。十分に納得できない場合接種するのを控えて下さい。予診票は、接種する医師にとって、予防接種の可否を決める大切な情報です。接種される方が責任をもって記入してください。
受けることができない人	○ 明らかに発熱している人（通常は 37.5℃を超える場合） ○ 重い急性疾患にかかっている人 ○ このワクチンの成分に対し重度の過敏症（アナフィラキシー）の既往歴のある人 ○ その他、医師に予防接種を受けないほうがよいといわれた人
予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなければならない人	下記にあてはまる方は本ワクチンの接種について、注意が必要です。該当すると思われる場合は、必ず接種前の診察時に医師へ伝えてください。 ○ 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害等の基礎疾患を有する人 ○ 今までにけいれんを起こした事がある人 ○ 過去に免疫不全の診断がなされている人および近親者に先天性免疫不全の方がいる人 ○ 間接性肺炎、気管支喘息等の呼吸器疾患を有する人 ○ インフルエンザワクチンの成分または鶏卵、鶏肉、その他鶏由来のものに対してアレルギーを呈するおそれのある人
予防接種を受けた後の注意事項	○ 接種後 30 分間は、急な副反応が起こることがあります。医師とすぐ連絡がとれるようにしておきましょう。 ○ インフルエンザワクチンの副反応の多くは 24 時間以内に出現しますので、特にこの間は体調に注意しましょう ○ 接種当日の入浴は問題ありませんが、接種部位を強くこすことはやめましょう。 ○ 通常の生活は問題ありませんが、接種当日は過度な運動や大量飲酒は控えましょう。
副反応が起こった場合	予防接種の後、まれに副反応が起こることがあります。また、予防接種と同時にほかの病気がたまたま重なって現れることがあります。予防接種を受けたあと、接種した部位が痛みや熱をもってひどく腫れたり、全身の蕁麻疹、繰り返す嘔吐、顔色の悪さ、低血圧、高熱などが現れたら、医師の診察を受けてください。